

3. スケジュール

		生活体験モニター	実施委員会、民間の協議組織会議	情報発信、アンケート、ヒアリング
平成17年	9月		第一回協議組織会議	ホームページで社員への周知（アルプス）
	10月	6組6名（2泊） ↓ 10/20～22 ↓ 10/21～23	第一回実施委員会	会員へのチラシ配布（パルアクティブ）
	11月	↓ 1組2名（6泊） 11/28～12/4		
	12月	↓ ↓ 1組2名（5泊） 12/22～27 ↓ ↓ 1組2名（4泊） 12/23～27		
平成18年	1月	↓ 1組1名（3泊） 1/28～31	第二回協議組織会議	メールでの冬メニューの送付（アルプス）
	2月	↓ 1組1名（2泊） 2/1～3 ↓ 3組3名（3泊） 2/9～12 ↓ 1組2名（3泊） 2/25～27		町内企業等へのヒアリングの実施
	3月		第三回協議組織会議 第二回実施委員会	

第4章 調査の結果

1. 生活体験の実施概要

(1) 生活体験概要

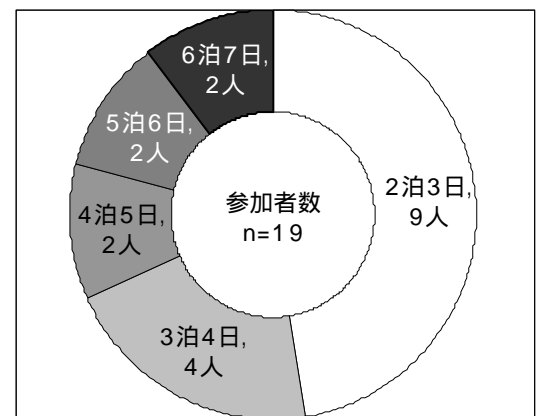
生活体験の参加者は15組19名であった。滞在日数を見ると、2泊3日の短期滞在者が最も多いが、全体的にアルプス技研からは短期滞在、パルアクティブからはやや滞在日数の多い参加者が見られた。

参加者の年齢は、60代が5名と最も多いが、その内訳を見るとアルプス技研からはやや若い層、パルアクティブからはやや年齢の高い層が多く見られた。

参加者の現住所は、首都圏が10名と多いが、関西圏も6名見られた。特に夫婦、親子で参加し、4泊～6泊した3組は全て関西圏からの参加であった。

参加者の滞在日数

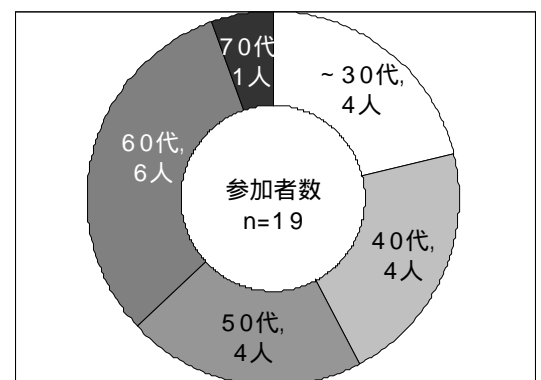
滞在日数	参加者数	内訳
2泊3日	9名	アルプス技研7組7名 パルアクティブ1組2名
3泊4日	4名	アルプス技研3組3名 パルアクティブ1組1名
4泊5日	2名	パルアクティブ1組2名
5泊6日	2名	パルアクティブ1組2名
6泊7日	2名	パルアクティブ1組2名



【参加者の滞在日数】

参加者の年齢

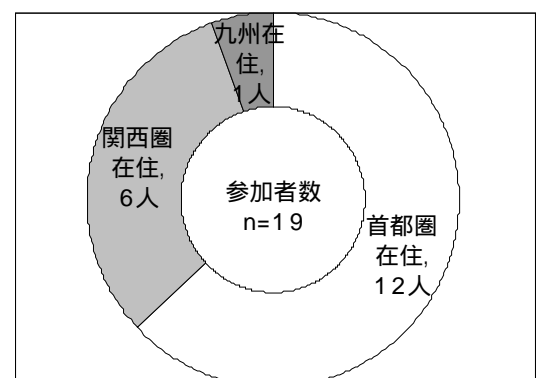
年齢	参加者数	内訳
～30代	4名	アルプス技研3名 パルアクティブ1名
40代	4名	アルプス技研3名 パルアクティブ1名
50代	4名	アルプス技研3名 パルアクティブ1名
60代	6名	アルプス技研1名 パルアクティブ5名
70代	1名	パルアクティブ1名



【参加者の年齢】

参加者の現住所

現住所	参加者数	内訳
首都圏在住	12名	アルプス技研9組9名 パルアクティブ2組3名
関西圏在住	6名	パルアクティブ3組6名
九州在住	1名	アルプス技研1組1名



【参加者の現住所】

(2) 参加者の滞在中の過ごし方

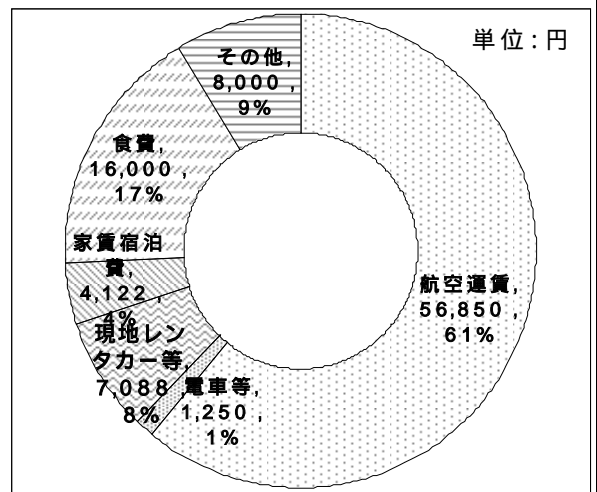
今回の生活体験モニターの移動手段や滞在中の過ごし方を以下に整理する。

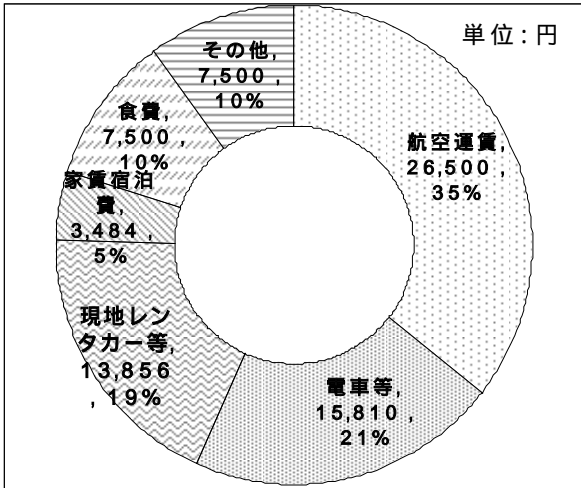
<p>現役世代男性 6 名 (アルプス技研社員)</p> <p>10/20(金) ~ 10/22(日)、10/21(土) ~ 10/23(月) 2泊3日</p>	
体験概要	<p>アルプス技研の幹部社員 6 名による週末を利用した 2泊3日の生活体験であった。短期滞在ではあったものの、ゴルフや熱気球体験、温泉めぐり、ナイタイ高原の見学、野外料理を体験など、多くのメニューを体験した。</p> <p>今回体験した 6 名は、会社の研修等での来訪経験があり、田舎暮らしを考えるきっかけとして参加した方々である。現役世代であるため、移住や二地域居住については現実的ではないが、今回の体験には高い満足度を示した。今後はもう少しゆとりのある日程での滞在により、町での生活の魅力を知ってもらいたい。</p>
ルート	<p>【行き】羽田空港 (航空機) 十勝帯広空港 (レンタカー) 上士幌町、糠平</p> <p>【帰り】上士幌町、糠平 (レンタカー) 十勝帯広空港 (航空機) 羽田空港</p>
滞在地	糠平温泉 (ペンション)
町内での体験	<p>【自然体験】</p> <p>ゴルフ、熱気球体験、温泉めぐり、野外料理体験・ダッチオープン、ナイタイ高原見学</p>
町内での移動手段	レンタカー (帯広空港より)
経費	<p>【 6 名合計 】</p> <p>646,699 円</p> <p>【 一人当たりの平均 】</p> <p>(町外での支出 65.5%)</p> <p>航空運賃 : 60,250 円</p> <p>鉄道運賃 : 1,333 円</p> <p>レンタカー : 8,992 円</p> <p>(町内での支出 34.5%)</p> <p>家賃宿泊費 : 15,000 円</p> <p>食費 : 4,167 円</p> <p>その他 : 18,041 円</p> <p>(合計)</p> <p>107,783 円</p>

単位 : 円

項目	金額	割合
航空運賃	60,250	56%
その他	18,041	17%
家賃宿泊費	15,000	14%
現地レンタカー等	8,992	8%
食費	4,167	4%
電車等	1,333	1%

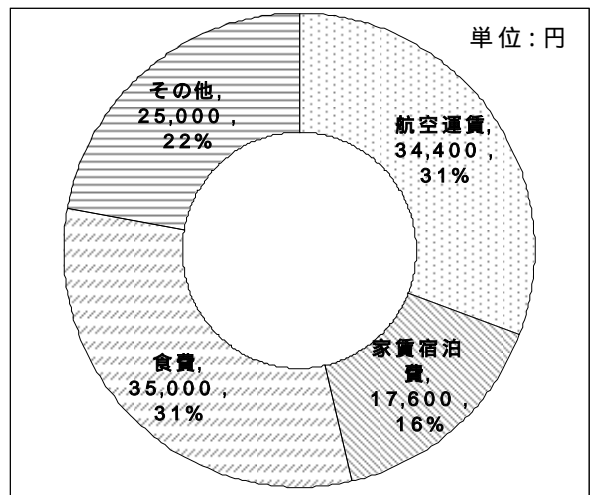
定年後世代夫婦（パルアクティブ会員） 11/28(火)～12/4(月) 6泊7日	
体験概要	<p>定年を迎えた夫婦の6泊7日の体験であった。今回の生活体験のなかでは最も長期間の滞在になる。市街地の教職員住宅に滞在しながら、ナイト高原の見学や、まちの畑や牧草地の散策、三国峠見学など町の周遊を体験した。</p> <p>これまでは上士幌町については名前しか知らなかったが、町での生活や自然環境や雄大な景観などの資源を知り、上士幌町での二地域居住を現実的な問題として考えるきっかけになったとの意見を得た。小さくても一定期間借りられる住居を希望している。</p>
ルート	<p>【行き】中部国際空港（航空機） 十勝帯広空港（ワンストップ窓口送迎車） 上士幌町</p> <p>【帰り】上士幌町（ワンストップ窓口送迎車） 十勝帯広空港（航空機） 中部国際空港</p>
滞在地	市街地（中学校教職員住宅）
町内での体験	【自然体験】町内の周遊（体験メニューは利用せず）
町内での移動手段	レンタカー（町内業者）
経費	<p>【2名合計】 186,619円</p> <p>【一人当たりの平均】 （町外での支出 62.3%） 航空運賃：56,850円 鉄道運賃：1,250円 （町内での支出 37.7%） レンタカー：7,088円 家賃宿泊費：4,122円 食費：16,000円 その他：8,000円 （合計） 93,310円</p>



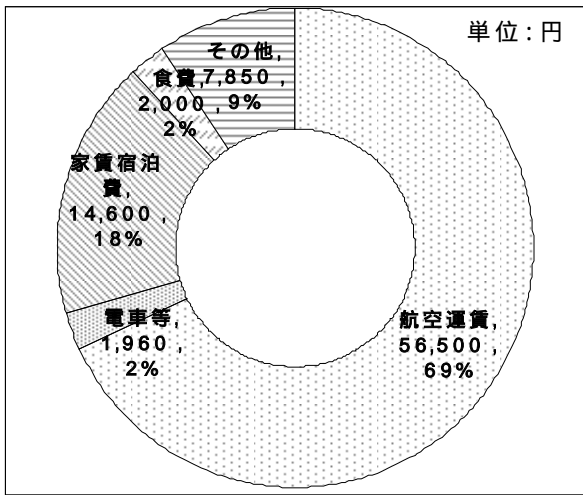
定年後世代夫婦（パルアクティブ会員） 12/22(金)～12/27(水) 5泊6日	
体験概要	<p>定年後夫婦の5泊6日の体験である。函館や札幌を經由して上士幌町の生活体験に参加した。町内の散策や温泉、農家の見学等を体験し、途中町内の農家との交流会にも参加し餅つきを体験した。</p> <p>近いうちに上士幌町との二地域居住をとの意向を持ち、次回は違う季節での体験を希望している。</p>
ルート	<p>【行き】中部国際空港（航空機） 函館空港、函館（JR） 新得駅（ワンストップ窓口送迎車） 上士幌町</p> <p>【帰り】上士幌町（ワンストップ窓口送迎車） 新得駅（JR） 新千歳空港（航空機） 中部国際空港</p>
滞在地	市街地（中学校教職員住宅）
町内での体験	<p>【自然体験】町内の周遊（体験メニューは利用せず）</p> <p>【地域との交流】もちつき、地元農家との交流会</p>
町内での移動手段	レンタカー（町内業者）
経費	<p>【2名合計】 149,299円</p> <p>【一人当たりの平均】 （町外での支出 56.7%） 航空運賃：26,500円 鉄道運賃：15,810円 （町内での支出 43.3%） レンタカー：13,865円 家賃宿泊費：3,484円 食費：7,500円 その他：7,500円 （合計） 74,650円</p> <div style="text-align: right;">  <p>単位：円</p> </div>

現役世代父子（パルアクティブ会員） 12/23(土)～12/27(水) 4泊5日																						
体験概要	<p>現役世代の男性とその息子の4泊5日の体験です。往路は新千歳空港までの航空機、復路は寝台列車での移動により比較的交通費は安価である。スキーや博物館見学、町内の周遊のほかに、農家との交流会に参加し餅つきを体験した。</p> <p>現役世代であり、今すぐではないが、将来的に二地域居住をしたいとの意向がある。今回は冬の体験であったが、別の季節にもゆっくりと滞在したいとの意見を得た。</p>																					
ルート	<p>【行き】伊丹空港（航空機）新千歳空港（JR）帯広駅（ワンストップ窓口送迎車）上士幌町</p> <p>【帰り】上士幌町（ワンストップ窓口送迎車）新得駅（JR）札幌（JR寝台）京都駅</p>																					
滞在地	糠平温泉（旅館）																					
町内での体験	<p>【自然体験】町内の周遊、スキー、博物館見学等</p> <p>【地域との交流】もちつき、地元農家との交流会</p>																					
町内での移動手段	レンタカー（町内業者）																					
経費	<p>【2名合計】 287,408円</p> <p>【一人当たりの平均】 （町外での支出 33.4%） 航空運賃：29,000円 鉄道運賃：19,015円 （町内での支出 66.6%） レンタカー：7,389円 家賃宿泊費：38,300円 食費：30,000円 その他：20,000円 （合計） 143,704円</p> <div style="text-align: right;"> <p>単位：円</p> <table border="1"> <caption>経費の内訳</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額 (円)</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>航空運賃</td> <td>29,000</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>食費</td> <td>30,000</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>家賃宿泊費</td> <td>38,300</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>電車等</td> <td>19,015</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20,000</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>現地レンタカー等</td> <td>7,389</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	項目	金額 (円)	割合 (%)	航空運賃	29,000	20%	食費	30,000	21%	家賃宿泊費	38,300	27%	電車等	19,015	13%	その他	20,000	14%	現地レンタカー等	7,389	5%
項目	金額 (円)	割合 (%)																				
航空運賃	29,000	20%																				
食費	30,000	21%																				
家賃宿泊費	38,300	27%																				
電車等	19,015	13%																				
その他	20,000	14%																				
現地レンタカー等	7,389	5%																				

定年後世代男性（パルアクティブ会員） 1/28(日)～1/31(水) 3泊4日	
体験概要	<p>定年後の男性による3泊4日の体験である。市街地の旅館に滞在し、町内の周遊を体験した。</p> <p>将来的には二地域居住を希望しており、今後また体験したいとの意向を得た。</p>
ルート	<p>【行き】羽田空港（航空機） 十勝帯広空港（ワンストップ窓口送迎車） 上士幌町</p> <p>【帰り】上士幌町（バス） 十勝帯広空港（航空機） 羽田空港</p>
滞在地	市街地（旅館）
町内での体験	【自然体験】町内の周遊（体験メニューは利用せず）
町内での移動手段	バス、タクシー
経費	<p>（町外での支出 30.7%）</p> <p>航空運賃：34,400円</p> <p>鉄道運賃：0円</p> <p>（町内での支出 69.3%）</p> <p>レンタカー：0円</p> <p>家賃宿泊費：17,600円</p> <p>食費：35,000円</p> <p>その他：25,000円</p> <p>（合計）</p> <p>112,000円</p>

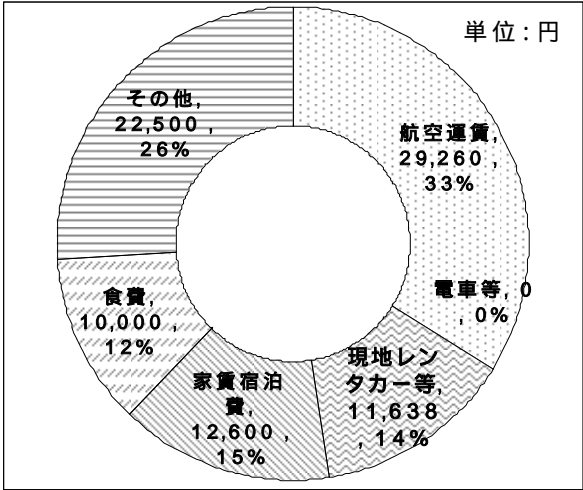


現役世代男性（アルプス技研社員） 2/1(木)~2/3(土) 2泊3日	
体験概要	<p>現役世代の男性による2泊3日の体験である。糠平温泉に滞在し、タウシュベツスノーシューツアーや、スキーを体験した。</p> <p>東京で家を購入したばかりで、移住や二地域居住は現実的ではないが、本州とはまったく違う景色や空気のきれいさを実感したとの意見を得た。</p>
ルート	<p>【行き】羽田空港（航空機） 十勝帯広空港（ワンストップ窓口送迎車） 上士幌町</p> <p>【帰り】上士幌町（ワンストップ窓口送迎車） 十勝帯広空港（航空機） 羽田空港</p>
滞在地	糠平温泉（ペンション）
町内での体験	【自然体験】町内の周遊（体験メニューは利用せず）
町内での移動手段	バス、タクシー
経費	<p>（町外での支出 70.5%）</p> <p>航空運賃：56,500円</p> <p>鉄道運賃：1,960円</p> <p>（町内での支出 29.5%）</p> <p>レンタカー：0円</p> <p>家賃宿泊費：14,600円</p> <p>食費：2,000円</p> <p>その他：7,850円</p> <p>（合計）</p> <p>82,910円</p>



現役世代女性 3 名 (アルプス技研社員) 2/9(金)~2/12(月) 3泊4日																						
体験概要	現役世代の女性による 3 泊 4 日の体験である。糠平温泉に滞在し、タウシュベツスノーシューツアー、スキー、熱気球体験、温泉めぐりなど多くの体験メニューを利用し、他では体験できない景色や寒さに満足している。 現在の生活(家族や仕事)があるために、移住や二地域居住は現実的ではないが、また訪れたいとの意向を得ている。																					
ルート	【行き】羽田空港 (航空機) 十勝帯広空港 (ワンストップ窓口送迎車) 上士幌町 【帰り】上士幌町 (ワンストップ窓口送迎車) 十勝帯広空港 (航空機) 羽田空港																					
滞在地	糠平温泉(ペンション、ホテル)																					
町内での体験	【自然体験】タウシュベツスノーシューツアー、スキー、熱気球体験、温泉めぐり																					
町内での移動手段	レンタカー(町内業者)																					
経費	<p>【3名合計】 362,730 円</p> <p>【一人当たりの平均】 (町外での支出 53.5%) 航空運賃: 62,300 円 鉄道運賃: 2,443 円 (町内での支出 37.7%) レンタカー: 2,567 円 家賃宿泊費: 24,600 円 食費: 2,333 円 その他: 26,667 円 (合計) 120,910 円</p> <table border="1"> <caption>経費の内訳 (単位:円)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>航空運賃</td> <td>62,300</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>家賃宿泊費</td> <td>24,600</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>26,667</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>食費</td> <td>2,333</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>現地レンタカー等</td> <td>2,567</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>電車等</td> <td>2,443</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額	割合	航空運賃	62,300	52%	家賃宿泊費	24,600	20%	その他	26,667	22%	食費	2,333	2%	現地レンタカー等	2,567	2%	電車等	2,443	2%
項目	金額	割合																				
航空運賃	62,300	52%																				
家賃宿泊費	24,600	20%																				
その他	26,667	22%																				
食費	2,333	2%																				
現地レンタカー等	2,567	2%																				
電車等	2,443	2%																				

定年後世代夫婦（パルアクティブ会員） 2/25(日)～2/27(火) 2泊3日	
体験概要	定年後夫婦の2泊3日の滞在である。糠平温泉に滞在し、タウシュベツ橋梁などの橋梁群の撮影や、星の観察を体験した。写真撮影が趣味で、以前から上士幌町には訪れたことがあり、今回も案内した自然ガイドとは知り合いであった。 上士幌町の他にも道東地域に候補地があり、三地域居住を考えている。
ルート	【行き】羽田空港（航空機）十勝帯広空港（レンタカー）上士幌町、糠平 【帰り】上士幌町、糠平（レンタカー）旭川、旭川空港（航空機）羽田空港
滞在地	糠平温泉（ペンション）
町内での体験	【自然体験】タウシュベツ撮影ツアー、他橋梁撮影ツアー、星の観察
町内での移動手段	レンタカー（帯広空港）
経費	<p>【2名合計】 171,995円</p> <p>【一人当たりの平均】 （町外での支出 47.6%） 航空運賃：29,260円 鉄道運賃：0円 レンタカー：11,638円 （町内での支出 52.4%） 家賃宿泊費：12,600円 食費：10,000円 その他：22,500円 （合計） 85,998円</p>



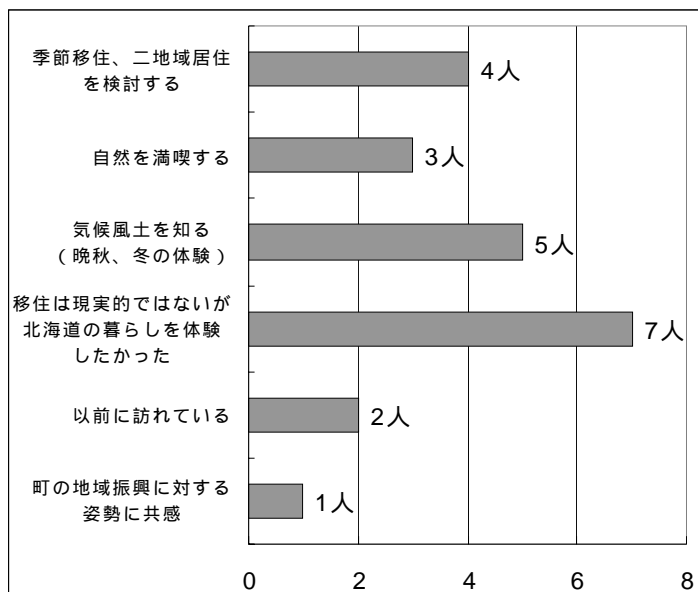
2. 参加者の意向調査結果

(1) 事前アンケート結果

ア 生活体験への参加理由

「移住・二地域居住を検討する」、「自然を満喫する」、「気候風土を知る」などの意見が寄せられている中、特にアルプス技研からの参加者を中心に「移住は現実的ではないが北海道の暮らしを体験したかった」との参加理由が多く寄せられた。

生活体験の参加理由	人数
季節移住、二地域居住を検討する	4名
自然を満喫する	3名
気候風土を知る (晩秋、冬の体験)	5名
移住は現実的ではないが北海道の暮らしを体験したかった	7名
以前に訪れている	2名
町の地域振興に対する姿勢に共感	1名

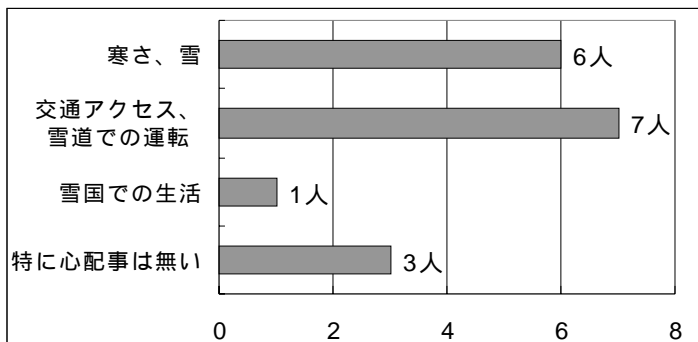


【生活体験の参加理由】

イ 生活体験参加にあたっての心配事

秋～冬にかけての期間における体験であったため、「寒さ、雪」や「交通アクセスや雪道での運転」の心配が多い。一方、ホテル宿泊者においては特に心配事が無いという方が多く見られた。

生活体験の心配	人数
寒さ、雪	6名
交通アクセス、雪道での運転	7名
雪国での生活	1名
特に心配事は無い	3名

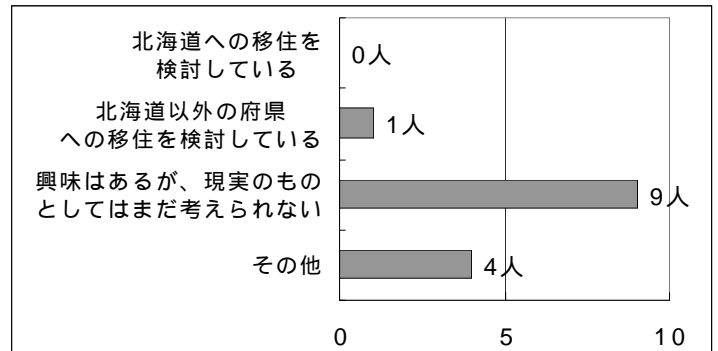


【生活体験参加にあたっての心配事】

ウ 移住意向

参加者の多くは、移住・二地域居住に関して「興味はあるが、現実のものとしてはまだ考えられない」という意向を持っている。一方で、教職員住宅に夫婦で宿泊した2組などからは、その他として、二地域居住、季節移住等の検討をしているとの回答を得た。

移住意向	人数
北海道への移住を検討している	0名
北海道以外の府県への移住を検討している	1名
興味はあるが、現実のものとしてはまだ考えられない	9名
その他	4名

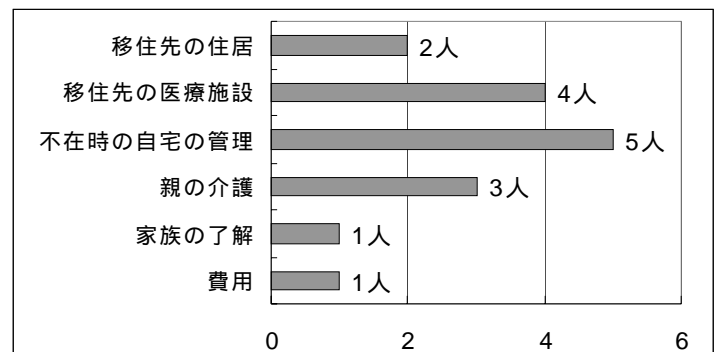


【移住意向】

エ 移住に当たっての制約や不安

「住居」をはじめ、「移住先の医療」など生活を送る上での基盤についての不安や、「不在時の自宅の管理」、「親の介護」など現在の住所の維持についての心配が挙げられている。

移住の制約、不安	人数
移住先の住居	2名
移住先の医療施設	4名
不在時の自宅の管理	5名
親の介護	3名
家族の了解	1名
費用	1名

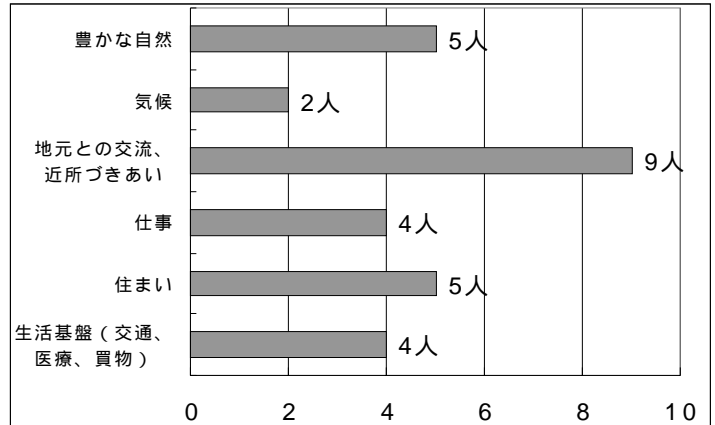


【移住にあたっての制約や不安】

オ 移住先の選定基準

「地元との交流、近所づきあい」を移住先の選定基準に挙げた方が多かった。他に「住居」はもちろん、「豊かな自然」との田舎暮らしを想定させる回答や、「仕事」や「生活基盤」など不便の無い生活を選定基準に考えるという回答も多い。

移住先の選定基準	人数
豊かな自然	5名
気候	2名
地元との交流、近所づきあい	9名
仕事	4名
住まい	5名
生活基盤（交通、医療、買物）	4名



【移住先の選定基準】

カ その他

「移住先には高齢者が暮らせる環境が必要」、「生活体験のために仕事の休みを取ることが難しい」、「体験メニューに、レジャー色が強いものばかりでなく、農業などの体験が欲しい」との意見や、「ワンストップ窓口の対応の良さから体験を決めた」との感想も寄せられた。

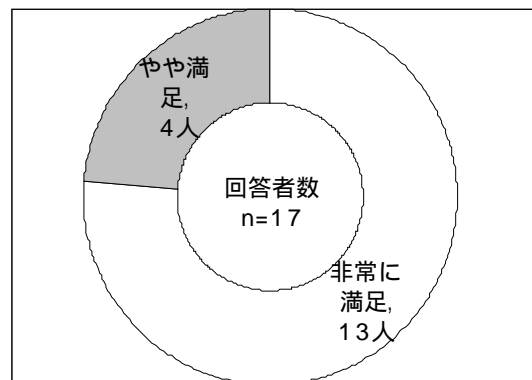
(2) 事後アンケート結果

ア 生活体験全般について

(ア) 生活体験の満足度

生活体験の満足度は高い。回答者全てが「非常に満足」もしくは「やや満足」と回答している。

生活体験の満足度	人数
非常に満足	13名
やや満足	4名
どちらでもない	0名
やや不満	0名
不満	0名

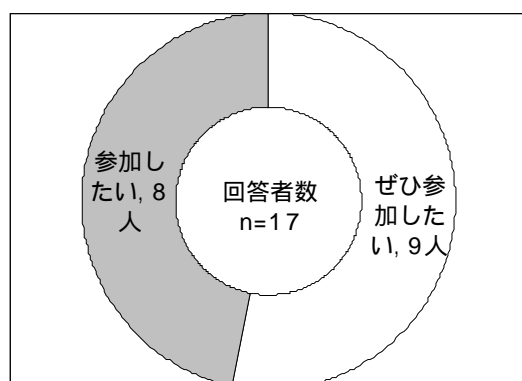


【生活体験の満足度】

(イ) 生活体験への再参加意向

「ぜひ参加したい」、「参加したい」との回答がアンケート回答のすべてを占めており、参加者全員がもう一度生活体験に参加したいとの意向を持っている。

再参加意向	人数
ぜひ参加したい	9名
参加したい	8名
どちらでもない	0名
あまり参加したくない	0名
もう参加したくない	0名



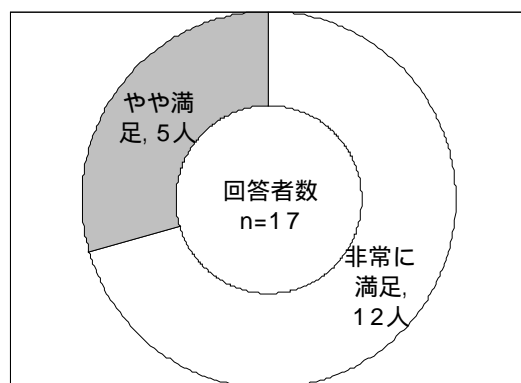
【生活体験への再参加意向】

イ 住居（ホテル・旅館）について

(ア) 住居（ホテル・旅館）の満足度

住居、ホテル・旅館については高い満足度を得られた。なお、教職員住宅を利用した2組からは非常に満足との回答を得た。

住居満足度	人数
非常に満足	12名
やや満足	5名
どちらでもない	0名
やや不満	0名
不満	0名



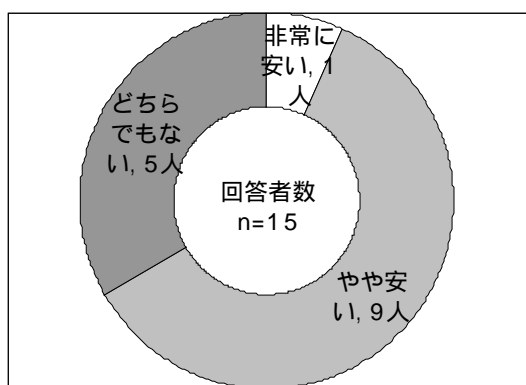
【住居（ホテル・旅館）の満足度】

良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・料金が安い、新しくてきれい、静か、利便性が高い（教職員住宅） ・アットホームで親切（ペンション） ・朝夕食がおいしい、地元の食材に満足（ペンション） ・料金が安い（旅館） ・温泉、サウナが良い（ホテル） ・内外装ともにきれいで設備が整っていた（旅館） ・あまり干渉されず自由だった（ペンション）
良くなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し調理器具が欲しい（教職員住宅） ・連泊に対応した食事メニューが欲しい（ホテル） ・寝具にタバコのおい、ヒーターが頻繁に停止（旅館）

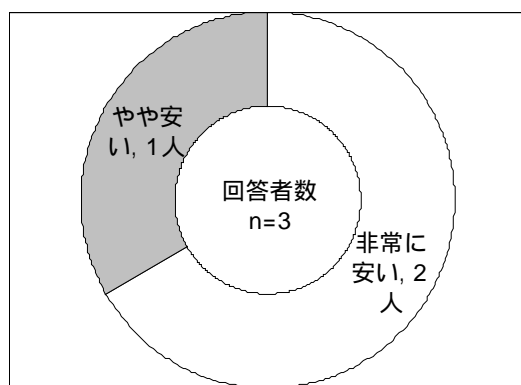
(イ) 住居（ホテル・旅館）の家賃（宿泊料金）

ホテル旅館利用者、教職員住宅利用者ともに安いとの回答が多いが、特に教職員住宅利用者の方が料金に関する満足度が高い。

住居費用	ホテル	教職員住宅
非常に安い	1名	2名
やや安い	9名	1名
どちらでもない	5名	0名
やや高い	0名	0名
非常に高い	0名	0名



【住居費用の満足度（ホテル・旅館）】

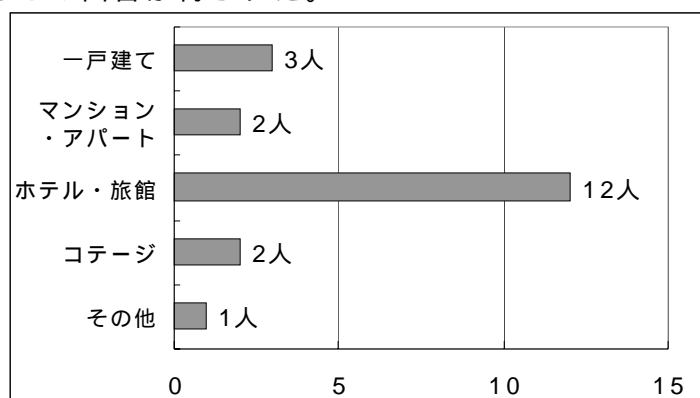


【住居費用の満足度（教職員住宅）】

(ウ) 今後の体験滞在の際に希望する住居形態

今回短期滞在でホテル・旅館を利用した方からは、体験滞在の際にはホテル旅館を利用したいとの回答が多く、教職員住宅を利用した方からは一戸建てやマンション・アパートを利用したいとの回答が多い。特に一定期間賃貸できるウィークリーやマンスリーマンションのような形態を望むとの回答が得られた。

希望する体験住居形態	人数
一戸建て	3名
マンション・アパート	2名
ホテル・旅館	12名
コテージ	2名
その他	1名



【希望する体験住居形態】

(エ) その他

その他、住居についての意見としては、「住宅の寒さ対策が不安である」、「ウイークリー、マンスリーのような一定期間賃貸できる施設が欲しい」、「借家を希望、広い土地はとても管理できない」という住宅利用に関する意見及び、「気軽に利用できる、食事がおいしいことが重要」、「温泉に宿泊できて良かった」とのホテル旅館に対する意見が得られた。

ウ 体験メニューについて

体験メニューの満足度も高い。ゴルフ場やスキー場の快適性や、体験モニターが初体験の熱気球の体験、野外での料理体験など、町の資源の質の高さが伺える。ただし、農作業体験や地域との交流メニューが欲しいという意見も見られ、いわゆるレジャーだけではない体験メニューの整備が求められている。

体験メニュー	体験メニューの満足度、感想
(ア) ゴルフ	(満足度) 非常に満足：4名 やや満足：2名 ----- (感想) ・環境、コンディション、価格ともに満足
(イ) 熱気球	(満足度) 非常に満足：7名 やや満足：1名 ----- (感想) ・早朝の清さ、360度の眺望を楽しめた ・大自然の眺望とダイヤモンドダストに感激 ・熱気球のメカニズムの勉強になった ・高所が苦手な私でも楽しめた ・天候によっては体験できないことへの対応が課題だと思う
(ウ) タウシュベツス ノーシューツア ー	(満足度) 非常に満足：4名 やや満足：2名 ----- (感想) ・ガイドの案内に満足 ・寒さと自然、湖上の景色を満喫 ・温暖化の影響で撮影条件は良くなかった
(ウ) 野外料理	(満足度) 非常に満足：4名 やや満足：2名 ----- (感想) ・懐かしい気分を満喫 ・自然の中での体験は新鮮 ・熊笹のお茶も良かった

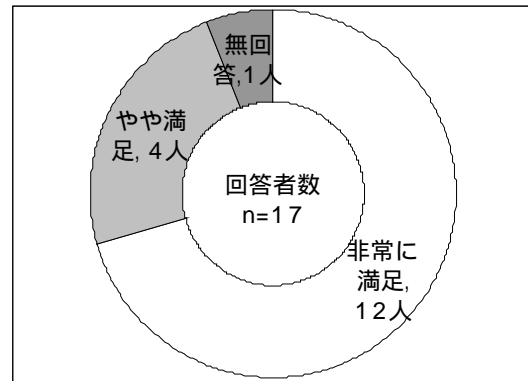
(エ) 温泉めぐり	(満足度) 非常に満足：3名 やや満足：4名
	(感想) ・露天風呂が最高だった ・宿泊した宿以外の温泉を巡り楽しんだ ・設備と景色をやや改善した方が良く思う
(オ) ナイタイ牧場	(満足度) 非常に満足：0名 やや満足：2名
	(感想) ・北海道らしいスケール、広大さにびっくり ・眺望がすばらしかった ・寒くてゆっくりできなかった ・牧場産のホットミルクがほしかった
(カ) バードウォッチング	(感想) ・小鳥が近くまで寄ってくる姿に感動
(キ) もちつき	(感想) ・子どもにとっては貴重な体験 ・地元の食材を使った料理が良かった
(ク) スキー、スノーボード	(満足度) 非常に満足：2名 やや満足：2名
	(感想) ・最高のパウダースノーに感激 ・レンタル料、リフト代が割引されて良かった ・スクールの丁寧な指導が良かった
(ケ) 博物館	(感想) ・貴重な資料の多さに驚いた
(コ) その他意見	・釣り、自然散策がしたかった(時間の制約がありできなかった) ・地元とのふれあいの機会が欲しかった(団体に訪れたために交流がなかった) ・夏と冬の端境期でイベントも少なかったためメニューは利用しなかった(独自で自然を楽しむことはできるのでメニューにはこだわらない) ・搾乳、チーズづくりをしたい ・町当局の対応が適切だった。

エ 食事について

(ア) 食事の満足度

食事の満足度は概ね高い。特に地域の産物を使った料理を提供するペンションや旅館の食事についての満足度は高い。一方で教職員住宅で自炊した体験モニターも、近くのスーパーで新鮮な食材が購入できたことに満足している。

食事の満足度	人数
非常に満足	12名
やや満足	4名
どちらでもない	0名
やや不満	0名
不満	0名
無回答	1名



【食事の満足度】

ホテル・旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域色豊かな献立（濃厚な牛乳、ふき、ジンギスカン、鮭のりいべなど）に満足 ・バラエティに富み味も良好だった ・適切な量と新鮮さに満足 ・メニューに無いものを出してくれるなど家庭的なところが良かった
教職員住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーで道内産の食材が購入できた ・魚の鮮度も良かった ・外食での豚丼もおいしかった ・短期間の滞在のため、食材を使い切るのが難しかった

(イ) 外食の頻度

教職員住宅に滞在した方も、一日に一度程度は外食をされている。昼間出かけた先での食事になり、糠平の食堂で外食した事例が回答されている。教職員住宅を利用する体験モニターもホテルや旅館の食事がとり易い仕組みがあると、食事のバリエーションが増え、より満足度を高められると考えられる。

(ウ) その他

その他、食事についての感想としては、「ご当地メニュー、地産の素材をふんだんに使って欲しい(説明も加えて)」、「野外料理を満喫できた、地元特産品の野外料理をプロモートして欲しい」など、店舗やホテルレストランでの食事に対しては地域の特色ある食事メニューを求める意見や、自炊された方からも、「地元の食材を使った料理を教えて欲しい」という意見、「外食の店舗案内は十分なのか」と食事に関する情報提供についての意見も得られた。また、ホテルでの長期滞在の場合には、自炊と外食を自由に選択できるような仕組みを望む意見も得られた。

オ 交通手段について

(ア) 自宅から上士幌町までの移動について

首都圏等遠方からの移動については、これまでも課題として考えられてきたが、「多少遠いが特に不便というほどではない」など、時間的には想像以上に近いとの意見が得られているが、それに対し「時間的には短い、費用特に航空運賃がかかる」など費用面については課題が残る。列車、寝台列車を利用された方からは快適だったとの回答を得ている。

また、帯広空港から上士幌町までの移動については、「遠く感じる」、「想像通り」などさまざまであるが、ワンストップ窓口による送迎に対する感謝の意見が多く寄せられており、車内での情報交換などにより満足度をあげることができたと考える。

(イ) 上士幌町内での交通手段について

晩秋～初冬にかけて体験モニターの多くは、レンタカーを利用した。一方で冬期の体験の場合にはレンタカーを利用せず、バスを利用した方もいる。

利用した交通手段	体験モニターの上士幌町内での交通手段についての感想
レンタカー利用：15名 バス利用：1名	・車が無いと何もできないと感じる ・ついスピードが出すぎてしまう ・長期間のレンタカー利用は費用が心配 ・雪道でも安定走行できた

(ウ) その他

到着までの交通手段については、「航空運賃が高い」、「空港からの公共交通(バス)がもう少しあると良い」など、町内での交通手段については、「車の運転ができなくなったら、どこにも行けない気がする」、「糠平にガソリンスタンドが無いことを周知すべき」との不安や要望が寄せられている。また、「ワンストップ窓口の送迎に感謝」との意見が多く寄せられており、窓口のサービスとして満足度を上げるために有効であることが伺える。

カ ワンストップ窓口について

ワンストップ窓口に対しては、概ね良好な感想を得られている。「親切な対応ありがとうございました」、「担当者の本事業への意気込みを感じた」、「申込み時から送迎、各種説明、現地での案内にまで丁寧で印象が良い」、「また、訪れたい気にさせてくれた」など満足度は高く、事前アンケートにおいてワンストップ窓口に期待することはあまりないとの回答が多かったことと比較すると、窓口による対応の効果は高いと思われる。

キ 情報について

(ア) 体験で知ることができたこと

体験前には分からなかったが、体験後に知ったことについては、「10月下旬の気温が想像よりも暖かかった」、「雪に閉ざされた生活を想像していたが、ドライブや温泉を楽しめた」、「自然の豊かさ、北海道ならではの景観」、「北海道の中心にあって周りの町を含めて楽しめそう」、「空気のきれいさや温泉の効能」など気候風土に関すること、「山に近く、広い畑、牧場など気持ちがゆったりします。それでいて日常生活の買物なども不便ありません」、「宿泊施設の周りにコンビニもなく、食事等に苦労しそうなこと(糠平)」など町の利便性に関すること、「地域の人々の人柄の良さ」、「旧国鉄の橋梁」、「生活している地域での冬直前の生活」など地域の魅力、実際の生活を知ったという意見が得られた。意見からは、当初予想していたよりも生活し易い、魅力が高いことを知ったという生活体験による効果分かる。

(イ) 今後希望する情報

今後希望する情報としては、「家族で楽しむ方法」、「ロングステイや各種イベントの情報」、「冬の道路事情」など、次回来訪する際の過ごし方の参考になる情報を求める意見や、「短期滞在可能な住宅の情報」、「車を運転できない子どもや年寄りの生活」といった実際の生活につながる情報提供を求める意見もあった。また、「PRが足りないと思う」との意見もあり、マスを対象としたPRの必要性についても検討の必要がある。また、宿や店舗での情報提供を求める声も受けた。

ク その他

(ア) 地元の人と知り合う機会

地元住民と知り合う機会は、ワンストップ窓口や旅館ペンションの関係者などの事業関係者を除くとあまりなかったとの回答が多い。

知り合いの出来	知り合った方々
知り合いができた：10名 知り合えなかった：7名	旅館やペンションの関係者 行政の担当者 NPOのガイド、スキースクールの講師 地元農家

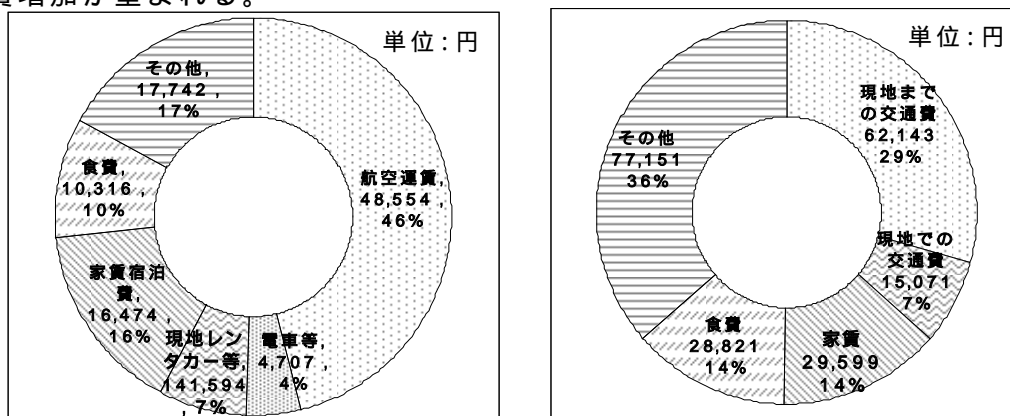
(イ) 費用

生活体験にかかった費用は全体で約200万円、一人当たり平均約10万円であった。内訳を見ると、航空運賃及び鉄道運賃が全体の50%を占める。教職員住宅の一部利用により家賃、宿泊費が低く抑えられていることはあるが、交通費を抑えることが生活体験のハードルを下げるための一つの解決策であるといえる。

また、上士幌町が同時に実施した長期滞在(1~2ヶ月程度)受け入れと比較すると、長期滞在受け入れの方が、現地までの交通費の割合が低く、その他の消費額が高くなっている。長期滞在は平均1ヶ月程度の比較的時間に余裕のある滞在であったため、フェリーを利用し、自家用車とともに来町した方が多かったことや、滞在中の生活雑貨の購入費や滞在中の道内他地域への短期旅行での消費が影響している。また、家賃宿泊費は、長期滞在においては1組を除いて教職員住宅や企業の社宅を利用していることから、滞在期間の割には安価である。

全国1万人の宿泊旅行者を対象にした調査では、1回の宿泊旅行にかかる平均費用(平均宿泊数1.72泊)は49,200円であり、内訳としては宿泊交通費が31,900円、現地小遣いが17,300円との結果が出ている。その調査の中で、北海道の宿泊旅行にかかった費用(平均宿泊数2.10泊)は全国平均より高く70,200円、その内宿泊交通費は46,700円(67%)、現地小遣い23,500円と3割以上が現地小遣いとして消費されている実態が示されている。(じゃらん宿泊旅行調査2006より)

この調査結果と比較しても、今回の体験モニターにおける消費動向は、全体の額が高いこと、前出調査の現地小遣いにあたる食費、その他の消費額、割合が少ないことが上げられる。消費を喚起するような商品開発や体験メニューの整備による町内での消費増加が望まれる。



【本調査生活体験における一人当たりの経費】 【町単独受け入れ事業における一人当たりの経費】

		航空運賃	鉄道運賃	現地交通費	家賃宿泊費	食費(宿食以外)	その他(体験メニュー、お土産等)	計
本調査生活体験	計(15組19名)	922,520	89,440	141,594	313,011	196,000	337,095	1,999,660
	一人当たり平均	48,554	4,707	7,452	16,474	10,316	17,742	105,245
町単独受け入れ事業	計(7組14名)	870,000		211,000	414,386	403,500	1,080,120	2,979,006
	一人当たり平均	62,143		15,071	29,599	28,821	77,151	212,786

単位：円

ケ 移住・二地域居住の意向

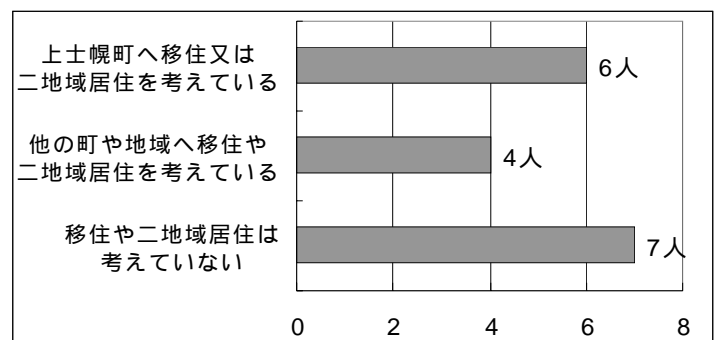
(ア) 移住・二地域居住意向

上士幌町への移住・二地域居住を考えているとの回答が5名いる。事前アンケートに比べて移住・二地域居住の検討をしているとの回答が増加している。

意見としては、「特に場所は限定しないが、上士幌町も含めて夏期1～2ヶ月間適当な滞在施設があれば来たい」、「二地域居住を考えている」、「山中湖、銚子、ペナン、バリ、パースが候補地」、「三地域居住を考えている」といった、現実的な検討課題として考えている方もおり、また「現在は考えていないが、夏季にリフレッシュで訪問するには最高」、「当面のところ、仕事が多忙であること、家族を含めた体験を重ねる必要があることなどからまだ具体的には考えていない」、「現状は不可能だが、将来(退職後)可能であれば二地域居住を考えたい」など将来的な展望としては、二地域居住を考えているという意見が多く見られた。

ただ、今回は特にアルプス技研からの体験においては企業の現役社員であるために、「実家(長野)と現住所(横浜)で精一杯」、「現在も単身赴任で、移住二地域居住を考慮する余裕が無い」、「親もいるので難しい」という回答も見られた。

移住・二地域居住意向	人数
上士幌町へ移住又は二地域居住を考えている	6名
他の町や地域へ移住や二地域居住を考えている	4名
移住や二地域居住は考えていない	7名

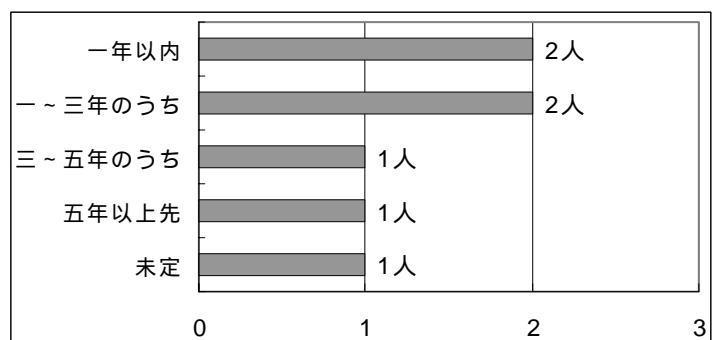


【移住・二地域居住意向】

(イ) 移住・二地域居住の時期

一年以内の移住・二地域居住を検討している方が2名(夫婦)、1～3年のうちとの回答が2名、3～5年のうちとの回答が1名から得られた。

移住・二地域居住の時期	人数
一年以内	2名
1～3年のうち	2名
3～5年のうち	1名
5年以上先	1名
未定	1名

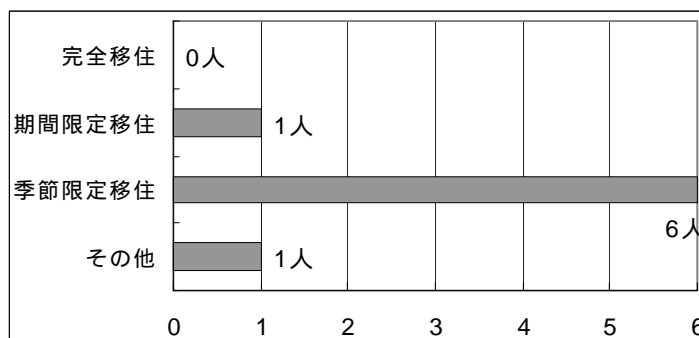


【移住・二地域居住の時期】

(ウ) 移住・二地域居住の形態

移住・二地域居住の形態としては、季節限定を考える方が多い。

移住・二地域居住の形態	人数
完全移住	0名
期間限定移住	1名
季節限定移住	6名
その他	1名



【移住・二地域居住の形態】

(エ) 移住に当たっての制約や不安

移住に当たっての不安としては、「生活の基盤(ご近所づきあいなど)」、「医療設備」、「交通の利便性、移動手段(レンタカーなど)」、「居住、滞在施設」など移住、二地域居住先地域での生活の利便性などの不安や、「両親の介護」「滞在中の自宅の管理(鉢花、芝生など)」など、現住所の管理についての心配や、「現住所での活動を長期間離れる事ができないので2週間程度の滞在まで」という現在の生活スタイル上の問題が上げられている。受け入れ側の体制作りについては検討を重ねているが、都市側の現住所の管理については今後の検討課題である。

(オ) 移住先の選定基準

移住先を決める際に基準とする視点は、都市部には無い自然や気候風土に関することとして「豊かな自然環境（現在の住居とは環境が違うこと）」、「気候が第一」がある。さらに、生活の基盤に関することとして、「土地や建物の価格」、「日常生活をする上で、ある程度利便性が良いこと」、「少なくとも車で30分程度で買物等ができること」、「リーズナブルな生活費」が上げられている。

また、「退職前であれば仕事があることが最大のポイント」「何かできることがあるか」など地域での活動の可能性や、「まちの人たちが親切であること」、「ボランティアに対するアセスメント」など地域の対応を挙げる方もいた。

コ 感想

違う季節にもう一度来たいという方や、もっとゆっくりと滞在したいという、今後の生活体験への前向きな感想が多く寄せられている。また、高額な航空運賃についてや、滞在中の体験メニュー、居住環境についての意見や、移住を近々の問題として考えている体験モニターからは、町の生活環境が予想以上に便利であったことや、滞在中の現住所の管理についての具体的な課題についての意見が寄せられている。

なお、生活体験全般に対する感想は、体験モニターのほとんどが回答を寄せている。特に生活体験の機会をもてたことや、ワンストップ窓口による対応に対する感謝が多く寄せられている。

3 . 受け入れ側の取組みと意向

(1) 上士幌町ワンストップ窓口

ア 作業実績

今回の生活体験において、ワンストップ窓口では以下のような作業を行った。

(ア) 参加者への対応

- ・参加希望者からの問い合わせ対応
- ・都市側及び受け入れ側協力団体との協議
- ・体験メニューの手配、調整
- ・参加者の送迎

(イ) チラシ作成、チラシ発送依頼、募集要項作成、申込様式作成

募集用のチラシ及び募集要項や申し込み様式を作成し、都市側協力団体をとおしてアルプス技研社員、パルアクティブ会員へ発信した。

作成したチラシ等
<ul style="list-style-type: none">・周知用チラシ（アルプス技研、パルアクティブ用それぞれ）・体験モニター詳細資料（アルプス技研、パルアクティブ用それぞれ）・冬メニュー紹介チラシ（アルプス技研用）・申し込み用紙、アンケート用紙（アルプス技研、パルアクティブ用それぞれ） 資料参照

イ 会議の運営

(ア) 民間の協議組織会議

町内の企業や業界団体、NPO 法人及び上士幌町をメンバーとする協議組織を立ち上げ、会議を開催した。

<p>第一回会議 平成 18 年 9 月</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 調査の概要説明・ 実施の流れと役割・ 受け入れ体制について・ 現在の受け入れの取り組みについて <p>【概要】</p> <p>今回の調査実施にあたり、町内の企業、業界団体、NPO 法人を集めた最初の会議として、顔合わせと事務局からの調査趣旨及び内容説明を行った。</p> <p>町で実施してきたこれまでの移住に関する取組みの延長上にあることを確認し、各団体の協力を仰いだ。受け入れのためには行政の受け入れ窓口に加えて、民間の窓口も必要であることを確認し、特にNPO等の法人格を持つことの重要性について説明した。委員からは、事業が軌道に乗っていない現状では、NPO法人化には慎重を期すべきであるとの意見が寄せられた。</p>
<p>第二回会議 平成 19 年 1 月</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生活体験モニターの進捗状況・ 協議組織規約について・ 地域の魅力向上のための方策に関する検討・ 民間サポート組織立ち上げに向けた検討 <p>【概要】</p> <p>2 度目の協議会として、調査の進捗についての報告及び、民間による協議組織の設立趣旨についての議論を行った。また、地域における新たなビジネスの創出や、民間の受け入れ窓口設立に向けての、先進事例の紹介を行った。</p> <p>委員からは、協議組織の目的として移住二地域居住に絞るのではなく、広く交流と捉えるべきであるという意見や、受け入れのために施設整備を行うべきであるとの意見が寄せられた。事務局により、各団体への個別ヒアリングを実施して協議組織設立の目的等を整理することを確認した。</p>
<p>第三回会議 平成 19 年 3 月</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 組織名称及び規約について・ 役員を選出・ 平成 18 年度生活体験事業の結果、平成 19 年度の活動について <p>事務局が実施した各団体へのヒアリングの結果報告を行い、協議組織の名称や設立目的等について決定した。名称は「上士幌町交流と居住を促進する会」とし、会の目的は「都市と上士幌町との交流を促進し、本町への滞在及び居住による地域活性化を図ること」と決定した。(会の規約は資料編参照)また、次年度以降の計画として生活体験事業の継続と移住者用の空家、空き地調査の実施を確認した。</p>

(イ) 実施委員会

移住促進協議会のメンバー及び、都市側協力団体のアルプス技研、スロータウン連盟、パルアクティブの担当者による本調査の実施委員会を開催した。

第1回実施委員会 平成18年10月
【内容】 <ul style="list-style-type: none">・自己紹介・調査の概要・進捗状況について
【概要】 <p>生活体験実施前の時期に、本調査に参加する受け入れ側及び都市側の各団体が一堂に会する会議として、各団体の顔合わせ、及び本調査内容の確認、生活体験モニターの募集状況の報告を行った。</p> <p>各団体から本調査に対する考え方についての意見交換を行い、今後の展開としての民間受け入れ窓口の設置についての協議を実施した。都市側協力団体からは、都市住民にある潜在的な田舎暮らしニーズを、今回の調査をきっかけに引き出すことができるのではないかという意見が寄せられた。</p>
第2回実施委員会 平成19年3月
【内容】 <ul style="list-style-type: none">・あいさつ・調査の結果概要・今後の取り組みについて
【概要】 <p>生活体験受け入れ後、調査の結果報告及び、今後の取り組み方針の確認を目的として受け入れ側、都市側各団体が一堂に会する会議を実施した。アンケート調査結果などをもとに、生活体験モニターの満足度の高さや課題について説明し、経済効果等について議論した。また、会議においては、同事業に対する国の動向についてや、事業としての可能性についての説明を行い、今後も継続的に移住・二地域居住促進や、都市農村交流事業を進めていくことを確認した。</p>

(2) 受け入れ側協力団体の意向

ア 会議における意見

民間協議組織会議及び、実施委員会における民間団体からの意見を以下に示す。

民間協議組織会議における意見	<p>【町の取組み方針について】</p> <ul style="list-style-type: none">・二地域居住の推進ではなく、移住定住を目指すべき・企業や組織としてのメリットがまだ理解できていない。・町で現在も都市農村交流に取り組んでいる方がいる。その方々の協力を仰ぐことも考えるべき。・ショートステイではなく、ロングステイを進めるような取組みを行うべき。・市街地ではなく、ロケーションの良い場所に体験用の住居が必要である。・若者の移住も応援したい。 <p>【民間サポート窓口について】</p> <ul style="list-style-type: none">・民間サポート窓口は、協議組織では担えない。実際の担い手は動き易い方をお願いし、企業や組織はそれに協力するという形になる。・サポート組織の NPO 法人化については、時期尚早である。将来的に法人格が必要であることは理解する。 <p>【調査の進め方について】</p> <ul style="list-style-type: none">・各団体の足並みが揃っていない。個別にヒアリング等を実施して、意向を取りまとめて欲しい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・会の名称を考えるべきである。都市農村交流について広く検討するイメージを考えたい。
実施委員会における意見	<p>【調査の進め方について】</p> <ul style="list-style-type: none">・都市住民のニーズに対して、町の対応を煮詰めていきたい。情報発信についても詳細な説明を加えるべき。・来訪者のパターン（長期か短期かなど）に対応できる体験メニューなどを考えたい。 <p>【町の取組み方針について】</p> <ul style="list-style-type: none">・農村地域など風景のよい場所での生活ができるような、住居を整備すべきである。

イ ヒアリングにおける意見

民間協議組織会議の中で、各団体が組織に参加するにあたってのメリット、デメリットを把握すること及び各団体の移住・二地域居住に関する意見を聴くために、町内9団体にヒアリングを実施した。以下のような意見が寄せられた。

(ア) 協議組織への参加について

ヒアリングの結果、民間の協議組織に参加する組織は、上士幌町商工会、上士幌町建設業協会、上士幌町農業協同組合、リフォーム・プロ、NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンターの5団体、今回は参加できない組織は、ニュービジネス研究会、NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会の2団体、4月以降、役員改選を経て決定したいという団体が上士幌町観光協会、糠平温泉旅館組合の2団体であった。当面は参加できる5団体による協議組織として活動を始める。

(イ) その他意見

現在町で整備検討中の移住者用住居、滞在施設について、すべての団体に質問があった。その中で、町内団体とともにプロジェクトチームを設置した方がよいとの意見を得ている。また、移住者用住居や体験用の滞在施設については、市街地、農村地区、糠平地区、それぞれに住宅を確保すべきという意見が多く見られる。

なお、町民全体で移住事業を盛り上げていくような仕組みづくりが必要である、協議組織の名称については、わかりやすく、親しみやすい名称にするとの意見から、ヒアリング後の会議で、民間協議組織の名称を「上士幌町交流と居住を促進する会」とすることを決定している。

1) 上士幌町観光協会、糠平温泉旅館組合
日時：平成19年2月5日(月) 13:30~14:30
場所：糠平館観光ホテル
出席者：上士幌町観光協会2名、糠平温泉旅館組合1組、上士幌町企画課3名
【意見内容】
・両団体とも4月に役員改選を控えている。改選をまって協議組織に参加するか決定する。
・会員には、移住へのステップとして、旅館やホテルに短期滞在することが予想されるので、そういったことで協力はできると説明したい。
2) NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター
日時：平成19年2月5日(月) 15:00~16:00
場所：糠平温泉文化ホール
出席者：NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター1名、上士幌町企画課3名
【意見内容】
・協議組織に参加する。
・上士幌町をPRする役割として参加できる。
・糠平地区にも住む場所があるとよい。
・既に移住されている方をオブザーバーとして、参加させてみたらどうか。

<p>3) リフォーム・プロ</p> <p>日時：平成19年2月5日(月)18:30~20:00</p> <p>場所：橋内建設</p> <p>出席者：リフォーム・プロ8名、上土幌町企画課3名</p> <p>【意見内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議組織に参加する。 ・町内からは、仕事はあるが、住む場所がないとよく聞く。例えば、酪農ヘルパーや大規模酪農家の所で働く者の住居確保が困難である。 ・移住したくても住居がないので、ハード整備も考えるべき。 ・本州からだけではなく、近隣からの移住者のために住宅を確保すべき。 ・住居、就業のほかにも、子育てへの支援をすべき。それが移住へつながるはず。
<p>4) 上土幌町建設業協会</p> <p>日時：平成19年2月6日(月)16:00~17:00</p> <p>場所：川村組</p> <p>出席者：上土幌町建設業協会8名、上土幌町企画課3名</p> <p>【意見内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議組織に参加する。 ・建設業協会としても、町に提案(資金面も含め)していきたい。
<p>5) NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会</p> <p>日時：平成19年2月6日(月)19:00~21:00</p> <p>場所：アーチ橋友の会事務所</p> <p>出席者：NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会2名、上土幌町企画課3名</p> <p>【意見内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友の会の活動趣旨と移住事業が結びつかない。また、友の会の活動も人員、資金も含めて、厳しい状況であり、現状では、協議組織に参加できない。オブザーバーという立場で関わっていく。
<p>6) 上土幌町農業協同組合</p> <p>日時：平成19年2月8日(木)15:00~16:00</p> <p>場所：上土幌町農業協同組合</p> <p>出席者：上土幌町農業協同組合3名、上土幌町企画課3名</p> <p>【意見内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議組織へは参加するが、農業制度改正もあり、人材を要求されても難しい。 ・農業体験などは花嫁対策へもつながる。 ・北門地区などの離農後も活用できるのではないかな。 ・地域懇談会で移住事業説明とあったが、制度改正の内容も話すため、別の機会の方がよいのではないかな。むしろ農業委員会総会の方がよいのではないかな。

7) ニュービジネス研究会

日 時：平成 19 年 2 月 8 日 (木) 19:00 ~ 21:00

場 所：NPO 法人ひがし大雪アーチ橋友の会事務所

出席者：ニュービジネス研究会 4 名、上土幌町企画課 3 名

【意見内容】

- ・ニュービジネス研究会としては、協議組織の中、制約のある中では活動したくなく、自らの考えのもと、迅速に活動できるようにしたい。協議組織などの制約を受けない組織として、今後も協力をしていきたい。
- ・二地域居住事業については、あまり賛成できない。やはり移住定住させるような事業を展開しなければならないと思う。

8) 上土幌町商工会

日 時：平成 19 年 2 月 9 日 (金) 18:30 ~ 20:30

場 所：上土幌町商工会

出席者：上土幌町商工会 4 名、上土幌町企画課 3 名

【意見内容】

- ・協議組織に参加する意向だが、3 月下旬の理事会にはかりたいと思う。
- ・まず、空き家やモデルハウスを確保すべき。
- ・離農された方を応援者にして、移住者などの家庭菜園へのアドバイスができるとうい。

4 . 都市側協力団体の取組みと意向

(1) アルプス技研の意向

ア 作業実績

アルプス技研においては、事業の準備段階から周知の方法や、現地での過ごし方などについての協議を重ねた。周知については、ホームページ、募集用チラシの他、募集状況を見て冬期間の楽しみメニューをPRするなどの追加措置を行った。

作業の内容
<ul style="list-style-type: none">・ 全社員を対象にアルプス技研ホームページで体験モニターの周知・ 50代社員を対象に、詳細な案内を郵送・ 全社員を対象に詳細な案内をメールで送付・ 冬期間の楽しみメニューをメールで送付

イ 今回の事業、今後の事業展開についての意向

全体的に事業については満足している。ただし、想定したとおりにはモニターが集まらなかったこともあり、今後違う季節での事業実施を希望している。

意見
<ul style="list-style-type: none">・ 本事業については全般的にやや満足・ 当初想定した通りには体験モニターが集まらなかった。・ 社員の農山漁村に対する興味が思ったよりも少なかった。(農山漁村の魅力を知らないことが原因)・ 社員からは、秋から冬ではなく春から秋の良い季節での体験を望む声が上がっている。・ 会社としては、来年度以降も生活体験の事業を継続したい。

(2) パルアクティブの意向

ア 作業実績

パルアクティブにおいては、パンフレットを作成してクラブ会員1万人への周知を行った他、募集状況を見た追加措置として、既に体験した方の体験談を会報に掲載しモニターの再募集を行った。

作業の内容
<ul style="list-style-type: none">・ 全クラブ会員を対象にパンフレットを送付して体験モニターの周知・ 問い合わせのあった方に詳細な資料を送付・ 会報誌に募集記事を掲載

イ 今回の事業、今後の事業展開についての意向

全体的に事業については満足している。ただし、想定したとおりにはモニターが集まらなかったこともあり、今後違う季節での事業実施を希望している。また、事業が継続すること、上土幌町の主体的な取り組みとして事業を進めるべきとの意見が寄せられた。

意見
<ul style="list-style-type: none">・ 会員からは、秋から冬ではなく、春から秋の良い季節での体験モニターを望む声が上がっている。今回は時期的に関心が集まらなかった。・ 一過性のイベントで終わることなく、今後の定期化、恒常化を望む。・ 来年度以降も生活体験の事業に協力したいが、都市側の都合で事業が進むことを危惧する。

第5章 調査の成果と課題の分析

1. 生活体験、移住・二地域居住の可能性と課題

(1) 阻害要因とその解消について

上士幌町における都市農村交流の阻害要因としては、以下2点が考えられる。情報不足に由来する北海道での暮らしに対する都市住民の不安感(冬の寒さ、北海道の気候、住居、食、地域住民との付き合いなど暮らし全般についての不安) 都市住民の受け入れ準備や、具体的なニーズを把握していないことに対する上士幌町側の不安感(受け入れるための住居不足、都市住民が町でどのような活動を望んでいるか等)

の阻害要因については、都市側協力団体の担当及びワンストップ窓口との生活体験申込時からの情報交換により解消に努めた。寒さや雪についての不安は体験しなければわからない部分であるが、事後アンケートによると、「思ったほど寒さを感じない」「住居の作りが良く快適に過ごせた」など当初持っていた不安が解消されている。このような体験談を、来訪を検討している方への参考意見として情報発信することは有効である。

の阻害要因についても、また、都市住民の受け入れ準備や、具体的なニーズを把握していないことに対する上士幌町側の不安感についても、モニターと受け入れ窓口等との生活体験申込時からの情報交換等により解消に努めた。ただし、モニターのニーズについて、完全には把握できた訳ではないため受け入れ側として不安を感じる部分はあったが、生活体験後のアンケートによる高い満足度から、モニターのニーズに一定の対応ができていたと判断することができる。

さらに、首都圏、関西圏からの距離、特に高額な航空運賃に関しては、参加者の感想にもあったが最大の阻害要因であると思われる。高額な交通費については、現在の羽田 とかち帯広空港間の運行について、複数の航空会社の競合による低価格化や、旅行代理店のパック化による低価格化等の改善が望まれる。

(2) 町の経済効果

経済効果に関しては、今回の調査を先行投資として考える必要があるため、消費額を経済効果として計ることにあまり意味がないものの、今回15組19名のモニターにより、合計で約200万円の消費、その内町内での消費分としては、約半分の約100万(現地レンタカー、宿泊、食費、体験メニュー代、お土産その他)であった。町内での消費を喚起するために、体験メニューの充実や、上士幌町独自の商品や食事メニューの開発など、新たなビジネスの創出による町の魅力付けが必要である。

(3) 町民の意識啓発効果

町民への意識啓発効果としては、短期滞在用に利用した町内のホテルや旅館に、特別料金を設定してもらうなど、事業への協力を得られた。また、今回の事業をきっかけに民間の協議組織として、町内の各種団体（商工会、農協、建設業協会、NPO法人など）が参画した「上士幌町交流と居住を促進する会」（以下、促進する会）が立ち上がるなど、都市農村交流について検討を始めている。

ただし、事業の有効性や町のビジョンを共有し切れていないという課題が残る。高齢者にとって北海道の生活は楽ではないことから、若者の移住こそ応援すべき、二地域居住では地域との交流を持たない人が想像されるとの意見も地元からは得ている。企業や組織にとってのメリット、町にとってのメリットをより明確にするための更なる協議が必要であり、今回立ち上げた協議組織において、移住・二地域居住、都市農村交流に関する検討を継続して行い、上士幌町の今後のまちづくりビジョンを確立し、それについての協議組織内での共有を進める。

また、町民、町内の企業・組織に、移住・二地域居住、都市農村交流事業の可能性を感じてもらうために、生活体験モニターの案内役を担ってもらうことや、町内外での継続的なPR活動や講演会・シンポジウム、勉強会などの開催を検討する。

(4) 都市部への PR 効果

今回の調査におけるシステムでは、全国展開する企業の協力のもと、社員や会員という的確なターゲットへの情報発信を、非常に低コストで実施することができた。当初の想定どおりのモニター数を確保できたことと、問い合わせ件数が多かったことから、PR に関して今回構築した連携システムが効果的に機能したと考えることができる。

昨年度実施した、北海道の事業による「長期滞在型生活体験モニター」においては、ホームページやイベントにより参加者を募ったにもかかわらず、期待したような参加者が集まらなかったことと比較すると、今回のシステムが有効に働いた可能性が高い。

今回の事業については、道内では新聞記事に取り上げられるなど注目度も高いものの、道外では取り上げられることも少ないことから、今後は連携する都市側協力団体を媒介とした情報発信を進める。

(5) 移住・二地域居住者増加の可能性

移住・二地域居住者の増加については、モニターの事後アンケートでは5名の方が「上士幌町への移住又は二地域居住を考えている」というとの回答を寄せている。しかも、「1年以内」、「1～3年のうち」と応えた方が4名おり、季節移住を希望している方や、2週間程度の四季毎の滞在を望んでいる方など、上士幌町への移住・二地域居住を現実的なものとして考えている方と、この事業を通して出会うことができたことは、成果として大きい。今後のフォローが重要である。

2 . 新たなシステムの可能性について

(1) 都市側団体との連携の効果について

ア 連携の効果

今回、上士幌町とアルプス技研、スロータウン連盟、パルアクティブとの連携システムを構築し、社員や会員への情報発信や受け入れ窓口との連絡体制づくり、作業分担や経費負担の取り決めなどを行った。特に情報発信や申込受付等については、都市側協力団体も実作業を担当した。この関係を構築できたこと、及びこの連携システムによって、モニターが確保できることを検証できたことが成果として挙げられる。

アルプス技研社員に対しては、福利厚生施策としてモニターを募集し、上士幌町でのリフレッシュを勧めた。アルプス技研共済会による補助で、社員は発地にかかわらず一律 25,000 円（交通費、宿泊費）での参加が可能であった。このように、低額での参加が可能であったため、晩秋から冬にかけてのオフシーズンの体験、長期休暇の取り難い状況であったにもかかわらず、参加者を確保できた。一方、パルアクティブ会員に対しては、長期滞在メニューとして参加者を募集した。短い周知期間、オフシーズンでの体験にも関わらず、教職員住宅での一週間程度の滞在者を含む参加者を得られたことは、連携の有効性を示すものである。

イ 今後の連携の方策

アルプス技研、パルアクティブともに、今回の事業を来年度以降も継続したいとの意向を示しているが、課題もある。特に、アルプス技研との連携については、現役世代を対象とした生活体験であることから、移住・二地域居住のニーズを持つ層だけではなく、観光や一時的なリフレッシュを目的とした層をターゲットにすることも必要であること考える。継続的な事業により、将来的な移住・二地域居住への展開を期待するという長期的な視点も必要である。

また、都市側団体との連携については、本年度連携した 3 団体との関係を続けながら、他団体との新たな連携を創出することも検討する。また、都市側団体としても、上士幌町だけではなく、上士幌町の周辺市町村を含めた連携により社員や会員の満足度を高めることが求められる。

(2) 上士幌町における受け入れ体制の可能性と課題

ア 受け入れ窓口について

今回の受け入れは、役場移住相談ワンストップ窓口を中心に行った。行政として受け入れ窓口を運営することのメリットは、相談者へ与える安心感や受け入れ側協力団体、都市側協力団体、他市町村などの広域連携においては有利である。一方で、行政だけでは人手不足からサービスを十分に提供することが難しく、また行政には公平性が求められることから、特定の民間事業者との連携や、協力関係を得ることに关しては慎重を要する。

そこで今後は、民間によるサポート組織を立ち上げ、行政のワンストップ窓口とともに受け入れを実施することを検討する。今回の調査のなかで立ち上げた促進する会においても、民間のサポート組織の立ち上げの必要性については確認しており、人材の確保と組織の活動資金の確保という課題を解決しながら、来年度以降早急に立ち上げることを目指す。

イ 受け入れ施設について

今回利用した教職員住宅に対しては、町に近くて便利、清潔で適度な広さなど、利用者からは概ね好い印象が得られた。また、モニターの意向としては、一定期間滞在できるウィークリーやマンスリー契約で借りられる住居を希望するなど、過大な投資をせずに利用できる住居があれば十分という意見が得られている。しかし一方で「もっと魅力的な上士幌町を体感してもらうためには教職員住宅では不十分である」という地元の意見もある。

また、旅館やホテルの中には、今回の体験モニターのために特別料金を設定した施設があるなど、事業への協力を得ている。ただし、食事メニューが長期滞在に対応し切れない部分もあり、今後の課題がある。

そこで、長期滞在用の施設としては、市街地の教職員住宅以外にも、農村部や山間部への設置を検討するとともに、ホテル・旅館の食事相互利用の推進など、使い勝手の良い施設連携の仕組み構築を検討する。

第6章 今後の展開

(1) 生活体験事業の継続

ア 今回の2団体との継続的な連携

今回の調査で構築した関係を継続し、アルプス技研、スロータウン連盟、パルアクティブとの連携を継続するとともに、新たな連携先を探しながら生活体験事業を拡大していく。アルプス技研社員への福利厚生施策、パルアクティブ会員への長期滞在メニューとしての方向性は変わらず持ちながら、今回得られた課題をふまえ、以下のよう
に手法を改善する。

アルプス技研においては、団塊世代を中心とした層に対する移住・二地域居住検討のための生活体験から、全社員を対象としたリフレッシュメニューとして上士幌町での滞在を楽しんでもらうことへ主眼を置く。すぐに移住・二地域居住には直結しなくても、上士幌町に多くの方が来てもらうことによる町の活性化、町を知ってもらうこと、口コミによるPR効果を期待し、参加者と地域との交流のなかで、将来にわたって町との関係を持つ社員が現れることを狙う。

パルアクティブにおいては、今後も継続的に会員への長期滞在メニューとして上士幌町での生活体験を楽しんでもらう。今回は晩秋から冬にかけての実験であったが、季節を通した受け入れを実施し、より多くの会員のニーズに対応することを目指す。長期受け入れのための住居については、上士幌町の魅力をより体感できる農村部や山間部への設置を官民協働で進める。

イ 地域との交流メニューの充実

生活体験メニューを充実するため、地元の活動組織や農家との連携を積極的に図り、地域との交流メニューの実施検討を進める。

地元農家の指導による農産物の収穫などの農業体験や、町の文化サークルや町内会活動などのメニューを用意し、生活体験者へ提供することを検討する。生活体験者と地域とのネットワークが生まれることを期待する。

(2) PR

今回実施した情報発信は、各組織から社員や会員へ直接情報提供する方法である。コストの面からも、個人情報のセキュリティの面からも非常に有効であるため、今後も今回実施した方法での継続的な情報発信を行う。

なお、移住・二地域居住など都市農村交流を推進するにあたっては、やはり特定のターゲットだけではなく、より広いターゲットに向けた情報発信が必要であることから、新聞やテレビなどマスメディアの活用についてもあらためて進める必要がある。

(3) 民間の受け入れに向けた継続的取組み

ア 促進する会におけるまちづくりのビジョン共有

今回立ち上げた促進する会において、移住・二地域居住、都市農村交流に関する検討を継続して行い、上士幌町の今後のまちづくりビジョンの明確化と共有に取り組む。

イ 民間サポート窓口づくり

上士幌町役場は、行政としての信頼感、これまでに蓄積したノウハウを活かして今後も継続的に受け入れ窓口としての機能を担う。

加えて、民間のサポート組織を立ち上げ、移住・二地域居住者や体験滞在者、観光客などの来訪者への情報提供や相談対応、広域的な対応などのサービスを行い、行政の受け入れ窓口と連携しながら移住・二地域居住、都市農村交流事業を進める。

(4) 受け入れ施設整備

ア 滞在用施設整備

生活体験により町の魅力を知ってもらうための滞在施設を、市街地の教職員住宅以外にも、農村部や山間部のロケーションの良い場所へ設置することを検討する。

(ア) 農村部の長期滞在用住居（不正形農地を活用）

特徴：上土幌町の最大の特徴である農村風景を背景にした小規模な長期滞在用住居

場所：農村部（1,000 m²程度の不正形農地を農地転用し、所有する農家から買収）

建築：広大な風景の中にあるべきデザイン、道産材を活用、通気・換気、適気密・適断熱など健康住宅仕様に配慮

(イ) 山間部の長期滞在用住居（廃校施設を活用）

特徴：上土幌町のもう一つの特徴である、自然環境を背景にした長期滞在用住居

場所：旧豊岡小学校教職員住宅

建築：自然の中にあるべきデザイン、道産材を活用、通気・換気、適気密・適断熱など健康住宅仕様に配慮

イ 移住・二地域居住者への宅地提供

移住希望者の住居や宅地の需用に対応するため、空き家や、不正形で使用し難い農地の活用推進方策を検討する。

空き家、不正形で使用し難い農地の活用推進方策検討内容

- ・空き家に関する基礎的調査（空き家実態調査、所有者の意向調査、権利関係、建築の用途、面積、設備等調査、耐震診断等）
- ・不正形等農地に関する基礎的調査（法的位置づけ等農地の実態調査、土地価格等土地に係る調査、不正形等農地活用のための土地利用等の方針検討）
- ・活用のシステムづくり（空き家、不正形等農地バンクの整備、移住・二地域居住希望者と不正形等農地をつなぐシステムづくり、住宅を建築した場合の助成金など助成制度の検討）
- ・活用モデルの作成（活用イメージの作成、農地付き住宅の設計）

ウ 大規模町有地を使った施設整備

10ヘクタールの大規模町有地を活用し、イムノリゾート上土幌の特徴を活かした交流と居住促進のための施設整備を行う。

移住者及び定住者向けの宅地として、一区画1,000~2,000 m²程度の大区画造成の実施や、生活体験用のモデルハウス、長期滞在用住居（コンドミニアム）の建設を検討する。